

2023 年 7 月 評価報告書

踊りたくなる夜

僕ら大人になって花を愛でるようになって
過ぎ去る季節を思って泣けるようになって
言えないことも増えたし言えることも増えたんだ
それは思っていたよりもずっと、ずっと[……]美しい日々

[2019, ノンブラリ, 『美しい日々』]

1. はじめに

7月 は文月とも言われる。7月7日の七夕に詩歌を献じたり、書物を夜風に曝したりする風習があることからそう呼ぶのだという。それでは、私の7月 は文月を全うしたのだろうか。

私の7月 は、5月24日の松本万季との離別に伴う傷心の影響を受け、加藤永扇や佐々木きららのやり取りが生活の大きな割合を占めた。公では、研究室での活動はコードの準備を終え次の段階に進んだことに加え、一橋大学の2年次に相当する学習を終えた。

本稿の流れは次のようになるだろう。すなわち、はじめに今月の日程を振り返り概観をさう。次いで、各期間においてふれた文化的作品についてまとめる。最後に、今月の統括を行うつもりである。本稿により現在を生きることを認め今後活かすことを期待する。

2. 7月の日程

07.01/19:22	秋田ー(鶴岡)→東京	酒田愛紅
07.02	吉祥寺	加藤永扇
07.03		小林史拓
07.04/22:48	東京ー(山形)→秋田	岡本寛陽
07.05		
07.06	スタバの抹茶ティーラテ	吉永龍生
07.07	資源大学校	吉永龍生
07.08		
07.09/06:43	秋田ー(仙台)→東京	
07.10	日暮里・渋谷・新宿	多田りさ子
07.11	後樂園・笹塚・横浜	篠木真由
07.12/15:04	東京ー(飛行機)→秋田・炊き込みご飯パ	吉永龍生
07.13		
07.14	朝パン屋	
07.15	避難と手巻き寿司パ	岡本寛陽
07.16	床下浸水と焼肉	伊沢翔
07.17	病み	
07.18	↓	
07.19	↓	
07.20	↓・ピザパ	吉永龍生
07.21	↓	
07.22	↓	
07.23	↓	
07.24	↓	
07.25	映画・展覧会・古着屋	
07.26	断捨離	
07.27		
07.28		
07.29		
07.30		
07.31		

3. 文化的振り返り

波打ち際の蜩, 島本理生

感性は感動しない 美術の見方、批評の作法, 榎木野衣

小説家の映画

プラダを着た悪魔

猿楽町で会いましょう

ソール・ライター展

NOW PLAYING 展

美短卒業生作品展

















